

環境中化学物質に対する感作性評価手法

名誉教授 川本俊弘、免疫学・寄生虫学 吉田安宏 他

利用分野

樹脂（プラスチック）原料への曝露量が推測でき、樹脂（プラスチック）による健康影響調査に利用するための評価手法を提供する。現在の測定法では隠れているエピトープを対象し、特異的IgEと臨床症状が乖離する問題の解決策として期待が持てる

シーズ

本発明で検出される抗体は特定の化学物質に特異的ではなく、生体内蛋白質の個別の3次構造変化に対する抗体の総量として算出されるので、曝露原因となる樹脂（プラスチック）原料がわからなくても何らかの樹脂（プラスチック）原料に曝露されていることが推測できる。



ニーズ

我々の身の回りには樹脂（プラスチック）が氾濫しており、これらの幾分かは我々の体の中に取り込まれ、これが何らかの健康障害に関与している可能性が示唆されている。しかしながら、現時点では樹脂（プラスチック）やその原料（モノマー）が一体どの程度我々の体の中に入っているのか推定する方法は皆無である。

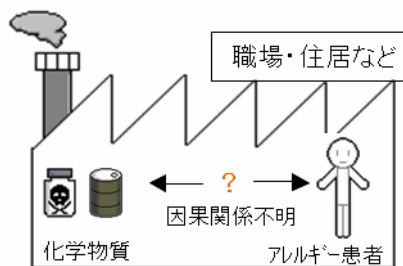
連携分野

本手法を基本として研究機関あるいは企業と共同研究を行い、実際に臨床検査で使える測定法の確立を目指している。



知財保護

特許第5757519号



職業性アレルギーには原因不明のものがたくさんあるんだ



本学マスコットキャラクター
ラマティー



産業医科大学

産業医科大学 産学連携・知的財産本部

〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

問い合わせ先: 研究支援課
TEL: 093 (280) 0532
FAX: 093 (691) 7518
E-mail: chizai@mbox.pub.uoeh-u.ac.jp